



Annual report

立川市子ども未来センター
市民活動支援
アニュアルレポート 2019

7th

Annual report

立川市子ども未来センター
市民活動支援
アニュアルレポート 2019

もくじ

子ども未来センターという場所	5
市民活動支援とはなんですか？	6
市民活動支援5つの活動コンセプト	8

令和元年度の活動報告

センターで活動する団体の数	12
協働事務室ってどんなところ？	13
コミュニティプログラムの実施回数	14
└ プログラム × ジャンル	15
エリア別プログラム実施状況	16
└ プログラム × エリア	17
プログラムのおまつり	18
イベントサポーターの活動	19
学び合う場「ワクワククラス」	20
出張/協働プログラム・アクティベーターの活動	21
みらきち卒業生インタビュー！	22
プログラム参加者の傾向	24
市民活動支援の広がりこれから	26
1年間のできごと	28



01 子ども未来センターという場所

立川市子ども未来センターは、子育て・文化芸術活動・市民活動の支援と行政機能の補完、そしてにぎわいづくりの拠点という5つの機能を備えた複合型公共施設として2012年12月にオープンしました。地下1階、地上2階の館内には、子育てひろば、会議室、アトリエ、ギャラリー、スタジオ、協働事務室、自主事業の「立川まんがばーく」など、様々な用途・機能に合わせた空間があります。なかでも市民活動支援

機能は、センターを中心に様々な主体とのつながりをつくり、活動を広げていくために、市民活動コーディネーターによる支援のしくみづくりを行っています。多様な機能を持つことで、地域の様々な世代の方たちが集い、つながることで笑顔が生まれ、立川市の未来につながる活動を支援していく施設となることを目指しています。

センターの5つの機能



1

子育て支援

子どもと子育て家庭が立川市で安心して子育てができるよう様々な支援を行っています。

2

文化芸術活動の支援

文化芸術の教室・講座の企画や、スタジオやアトリエ、ギャラリーなど多様な空間を貸出しています。

3

市民活動支援

市民活動団体の活動の舞台として、様々なプログラムを展開するためのサポートを行っています。

4

にぎわいの創出

4万冊程度のまんがを楽しめる「立川まんがばーく」のほか、フリーマーケットなども開催しています。

5

行政機能の補完

館内の錦連絡所では、各種証明書の発行や市税等の収納など一部の行政機能を行っています。

02 市民活動支援とはなんですか？

センターにおける市民活動支援とは、センターを舞台に活動するみなさんをサポートすること。これからの公共施設には、市民が施設の運営面にも積極的に関わられるしくみづくりが重要です。施設を利用するだけでなく、自分たちの活動を一般市民である来場者に「プログラム」として提供することでセンターの運営に参画し、訪れる市民とつながり、活動の輪を広げていくことを目的としています。また、市民活動

団体によるプログラムは、新たな仲間づくりやスキルや趣味の披露のほか、健康づくり、災害時の共助の関係づくりなど、公共的なサービスの一環も担っています。

広場やテラス、まんがばーくなど、センターのいたるところでプログラムが展開されることにより、市民が主体的に使いこなす新たな公共施設として市民に愛されることを目指しています。

コーディネーターによる様々なサポート

センターには市民活動コーディネーターと呼ばれるスタッフが市民活動団体の活動支援を行っています。ここではコーディネーターによるサポートの一部をご紹介します。

1 活動したい団体の発掘、ヒアリング・登録

センターで活動したい団体を対象に、支援機能や後述の5つの活動コンセプトに関する説明と現在の活動に関するヒアリングを行っています。これまでの活動状況やセンターでやってみたいこと、活動における強みや悩みなどを伺い、登録の審査と今後のサポートの仕方を考えます。

○ 団体の発掘・市民活動支援の説明・事前ヒアリング・登録審査



2 プログラムの企画・準備支援

センターでやってみたいことを実現させるためのサポートとして、企画の相談やプログラムの内容に適した空間の提案、当日に向けたリハーサルなどを団体とともに進めます。より魅力的なプログラムにするために何度も話し合い、内容を検討することもしばしばあります。

○ プログラム相談対応・会場や備品の予約対応



3 センターでの活動の広報・PR

センターでの活動を広く知ってもらうための広報活動も行っています。毎月発行される「プログラムカレンダー」や定期イベントのチラシ配布のほか、市民活動を紹介する展示、Facebookページの運用など様々な媒体で活動を発信しています。その他に視察やイベントでのPRも行っています。

○ プログラムカレンダー・Facebookページの運用・視察や取材の対応



4 プログラムの実施サポート

プログラム当日は、団体の活動を見守りながら写真撮影など活動の記録を行います。実施後は参加者にアンケートを取り、プログラムがどうだったか、今後も参加してみたいかなどのニーズを調査します。とりまとめた結果をもとに団体とふりかえりを行い、今後の活動につなげていきます。

○ 写真撮影などの記録・アンケートの配布・とりまとめ



5 他団体・地域や企業とのネットワークづくり

同じくセンターで活動している他団体や地域団体、企業や学校など、様々な団体とのネットワークづくりもお手伝い。自分たちだけではできないことがあっても、力を合わせれば大丈夫。団体のやりたいことを実現したり、悩みを解決したりできるようなつながりづくりを目指しています。

○ 懇親会の実施、地域・企業との協働イベントの企画実施



6 協働事務室の運営・活用

プログラムの準備や打ち合わせのほか、他団体との交流の場としても利用できる協働事務室。団体の声を聞きながら、共有備品の設置や懇親会の開催など、新たな機能の追加や企画を実施しています。より使いやすい、活動しやすい環境づくりもコーディネーターの仕事です。

○ 共有備品の設置・管理



03 市民活動支援 5つの活動コンセプト

センターで活動する市民活動団体は5つの活動コンセプトを柱として活動しています。この5つのコンセプトはセンターがオープンする半年前、市内の市民活動団体を中心に開かれたワークショップで生まれたものです。この施設でどう活動するのか、どんな活動が求められているのか、ということ活動を自分たち自身が考え、話し合い、決めました。センターの市民活動支援は常にこのコンセプトとともに運営されています。



センターオープン前に実施されたワークショップの様子



5つの活動コンセプト



1 多世代が集まる場にしよう

- ・多世代が楽しめる、訪れたい活動しよう
- ・子どもたちも参加できるプログラムを考えよう
- ・大人も子どもも安心できる空間をつくらう

2 つながりを大切にしよう

- ・つながり、協力・連携していこう
- ・新たな仲間をつくっていこう
- ・お互いの活動を尊重し合おう

3 社会性を意識しよう

- ・市民のニーズに応えよう
- ・新しい公共サービスを提供しよう
- ・社会性のある活動しよう

4 楽しんで自主的に活動しよう

- ・まずは自分たちが楽しもう
- ・自分たちでつくりあげていこう
- ・できることから始めてみよう

5 魅力的なプログラムをつくらう

- ・センター独自のプログラムを考えよう
- ・継続した活動を行おう
- ・プログラムのクオリティを大切にしよう



[上] バランスボール体験 (Dear Mother) / [左下] 夏休みの科学実験プログラム (立川子ども劇場) / [右下] 読み聞かせでの交流タイム (森のポケット)



[上] 夏のイベント「さんさんガーデン」でのひかるうちわ作り(イベントサポーターズ) / [下] アートを介したコミュニケーションを楽しむプログラム(コネルテ)

令和元年度の活動報告

新たな仲間。新たな場。
一歩を踏みだすきっかけに。

センターで活動する団体の数
(登録団体数)

56 団体

令和元年度末の時点で、計56団体が登録し、センターで活動しています。今年度は、子ども向けに活動する団体に加え、食やアロマ、俳句など多様なテーマで大人向けに活動する団体も仲間入り。子どもから大人まで、多世代が楽しめる場としての認知がますます広まってきていることがうかがえます。これからどのような展開が生まれるのか、とても楽しみです。

登録団体一覧 市内36団体／市外3団体／市内外17団体 *五十音順

学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動	IPPUKU／エンジョイノルディックウォーククラブ TOKYO／オトナリ／おはなし会 森のポケット／おはなしサークル ぐりとぐら／親子映画東京連絡会／音楽地図／コネルテ／コミュニティ・ゴスペルクワイア Spirit of Soul／Gospelship United／3B柴崎健康体操／シニアパソコン教室／すこやかクラブ／CEVEC／立川スポーツ鬼ごっこ部／たちらぼ／だるあるす／T.K.Winds吹奏楽団／ドロップ／Nomad Artノマドアート／俳句錦の会／パソコンライフ／ほっと♡ハート／若葉きずな会／若紫の会
子どもの健全育成を図る活動	学生団体 N.G.I.／くじらのおうち／国立市食物アレルギーサークル「にこにこ」／立川キラリっ子ファミリーカフェ／NPO法人立川子ども劇場／チャイルドラインたちかわ／Dear Mother／転ママ come on!／ひげじいさ〜ん／ヒッポファミリークラブ／ボーイスカウト立川第10団／ママトコ／Loving Kids／リトルジラフ／ワッカチッタ／わんぱく親父の会
社会教育の推進を図る活動	オリーブの会／CoderDojo立川／NPO法人こととふらぼ／社会貢献活動団体 mokuromi／障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会／立川イタリア歌劇団／立川ジャグリングクラブ／立川0円ショップ縁側／中途失聴・難聴者「つばさの会」立川／東京にしがわ大学／Maharo
まちづくりの推進を図る活動	立川食べ歩き隊
人権の擁護又は平和の推進を図る活動	立川みらい／プラン多摩の会／錦法律を知る会

つながる、ひろがる、シェアスペース

協働事務室「みらきち」ってどんなところ？

協働事務室は、団体が打合せを行ったり、プログラムの準備をしたりできる登録制のスペース。市民活動コーディネーターが常駐しており、プログラムの企画やセンターの活用方法などについて気軽に質問・相談できるのが特徴のひとつです。登録団体の皆さんと一緒に検討し、「様々な取り組みや協働を生み出す子ども未来センターの基地」という意味が込められた、『みらきち』という愛称で地域の皆さんに親しまれています。



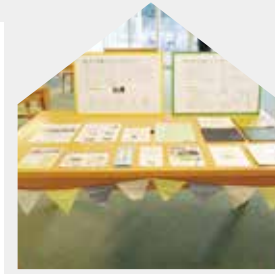
喫茶めがね（懇親会）

コーディネーターがマスターとなり、軽食を食べながら団体同士がテーマに合わせて気軽に交流できる場。今回は喫茶がおでん屋さん！『偏愛しているもの』について語り合いました。皆さんの意外な一面が見られ盛り上がりました。



みらきち開放DAY!

協働事務室（みらきち）のことをより多くの人に知ってもらうために月に1回程度実施しているプログラム。ふだんは登録団体向けのスペースですが、この日はどなたでも自由に利用することができます。



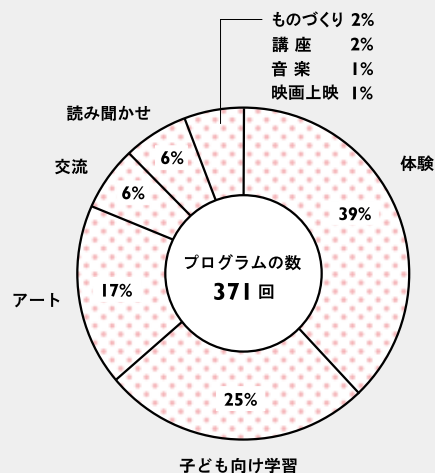
コミュニティプログラムの実施回数

371回

コミュニティプログラムとは、センターに来館する市民に向けて登録団体が提供するプログラムのこと。見たり聞いたりするだけでなく、参加者同士、または団体スタッフとの交流が生まれる仕掛けがあるのが特徴です。今年度は、春に新型コロナウイルスの影響で多くのプログラムが中止になってしまったものの、それでも昨年度とほぼ同じ実施回数となりました。月に30を超えるプログラムが実施され、にぎわいを生み出しました。

ジャンル別プログラム実施状況

今年度も、団体の活動テーマに合わせて様々なジャンルのプログラムが実施されました。昨年度より割合が増えたのは体験プログラム。体をめいっぱい動かせる親子向けのプログラムや、子ども向けの実験プログラムなど、家の中ではなかなかできないことを体験できる内容がとても人気でした。



プログラム × ジャンル



× 体験

プロの歌手でもある先生の手ほどきを受けながら、子どもと一緒に親子で子守唄やあそび唄を作るプログラム。参加者の暮らしの一面を取り入れて作られた歌詞で、みんなでワイワイ楽しく歌いました♪



× ものづくり

写真や手形や可愛いモチーフを箱に詰めて、子どもの成長記録を残せるプログラム。「それ、どうやって作ったの?」「私も真似したい!」とママ同士でアイデアをシェアする様子も見られました。



× 子ども向け学習

紙とマジックペンを使って科学実験を楽しむプログラム。液体に反応してインクの色が変わる様子に「次は何色になるだろう?」と目をキラキラさせている子どもたちが印象的でした。

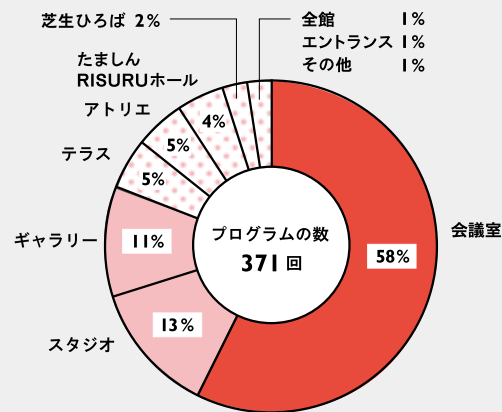


× 講座

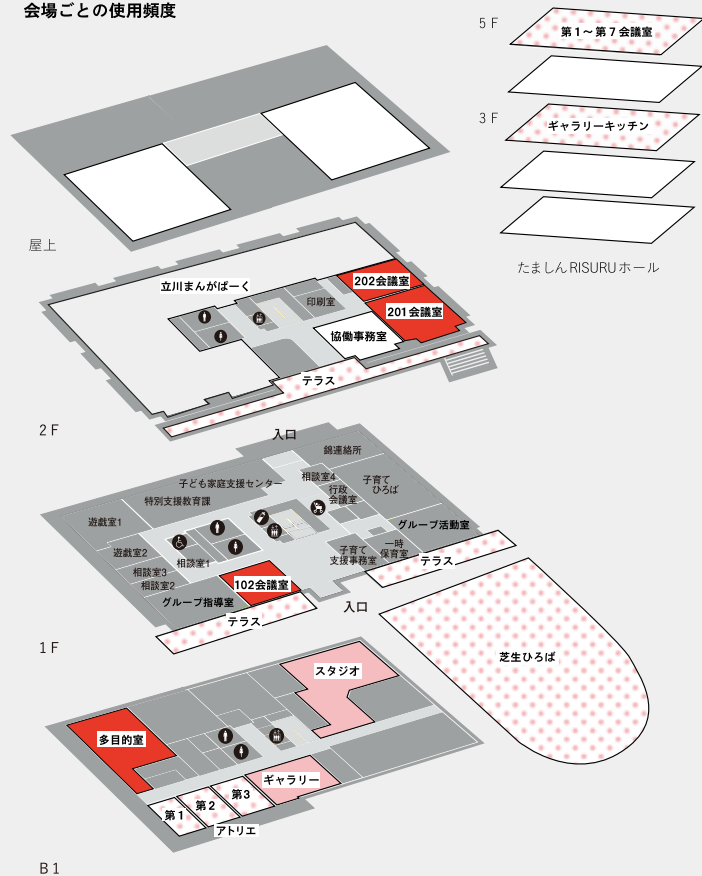
色の持つ力を活かして楽しみながらできる『色育』について学ぶプログラム。カードゲームやぬり絵などの実践を通じたレクチャーに、ママだけでなく子どもたちも興味津々の様子でした。

エリア別プログラム実施状況

昨年度よりも利用の割合が増えたのはスタジオやギャラリー、そしてたましん RISURU ホールのキッチン付きギャラリー。いずれも壁面の白さや天井の高さ、日光の入り具合などによる明るい雰囲気が人気で、「プログラムを実施するときはいつもこの部屋！」という団体もいるほどです。



会場ごとの使用頻度



プログラム × エリア



芝生広場エリアの隅に怪しげなテント……。瞑想と占いで、日ごろのモヤモヤをすっきりさせるプログラム。ちょっぴり勇気を出して会場を訪ねた参加者の皆さん、とても楽しそうに過ごしていました。



使わなくなったものを新たな使い手に渡すプログラム。広々とした空間で、服や本や雑貨など様々なものを囲みながら、会場を訪れた皆さんと出品者たちとがゆったり交流を楽しんでいました。



開放的な空間で開かれた読み聞かせ会。リピーターの子に加え、通りすがりの子も興味津々ではおはなしに聞き入っていました。新たなファンが増えて、団体スタッフの皆さんも嬉しそうでした。



色紙やセロハン、インクなど様々な素材を組み合わせで自分だけの影絵劇場をつくるプログラム。最後の鑑賞タイムでみんなの作品を発表！まっ暗な会場に、幻想的な世界が広がりました。

プログラムの おまつり

複数の団体が集まり同日にプログラムを実施する「プログラムのおまつり」は、毎年恒例となっている行事。団体が互いの活動スキルを活かしたり、新たなことにチャレンジしたりできる機会です。今年度も数回の作戦会議を通してみんなでアイデアを出し合い、楽しいイベントを作り上げました。

夏

さんさんガーデン

毎年大人気の夏イベント『さんさんガーデン』。今年度も1日を3つの時間帯に区切って開催しました。日中は水遊びや流しそうめんなど、水を使ったプログラムが集まる『水フェス!』、夕方からは様々なものづくりや飲食の屋台が立ち並ぶ『縁日!』、夜は屋外で映画鑑賞を楽しめる『星空シネマ★』。全部で14のプログラムが実施され、700人近い人たちが会場を訪れました。とても暑い日でしたが、子どもたちは朝から元気いっぱい!会場をあちこち巡りながら、夜までたっぷりプログラムを楽しんでいました。



トピック

1

今年度も近隣自治会から提灯をお借りし会場の装飾に。そのお礼にと行った地域の夏祭りの手伝いには、コーディネーターだけでなく団体も参加!地域とのつながりを深めるきっかけになりました。



トピック

2

イベントに参加する団体の皆さんと作るおそろいグッズ、今年度はバンダナ!「スタッフであることがわかりやすいように目立たせよう!」という意見が挙がり、いつもの白地から黄色の布にチェンジ♪



イベントサポーターの活動

? イベントサポーターとは

イベントサポーターとは、プログラムの実施や運営サポートを通して一緒にプログラムのおまつりを盛り上げていくメンバーのこと。イベント当日の数ヶ月前からオリエンテーションや自主会を経て少しずつ準備を進めていくので、新たな仲間との交流を深めながら、イベントづくりの一連の流れを体験できるのが魅力のひとつです。イベントの終了がサポーター活動の区切りとなりますが、その後も継続的に活動していきたいというメンバーは、『アクティベーター(P.21参照)』として引き続き市民活動に関わることができます。今年度は夏と春合わせて14名が集まりました。



夏

のイベントサポーター

『さんさんガーデン』のサポーターは、東海エリアから参加したメンバーも!各々が複数の役割を担いサポート合いながら3つのプログラムを実施しました。終了後はヘトヘトになりながらも大きな手ごたえを得たようです。ほとんどのメンバーが、現在も『アクティベーター』として活動を続けています。



春

のイベントサポーター

脱出ゲーム『みらきちからの挑戦状』のサポーターは夏の倍近くの人数が集まり、にぎやかなチームとなりました。しかし、残念なことに新型コロナウイルスの影響でイベントは中止……。それでも活動を続けたいというメンバーが多く、次年度の『さんさんガーデン』に向けて活動を継続しています。



学び合う場、 「ワクつくクラス」

市民活動をより身近に感じてもらい、活動への一歩をふみ出すきっかけづくりをしたいという想いから生まれた「ワクつくクラス」。今回はイベントサポーターの活動のオリエンテーションとしても開かれた学びの場となりました。当日は、みらきち登録団体の皆さんも一緒に参加したことで多くの人が集まり、学びを深めることができました。

テーマ 5 「子ども未来センターの空間活用術」

ゲストは公共空間での面白い取り組みを紹介するウェブサイトを運営する石田祐也さん。公共空間での魅力的な活動についてレクチャーを受けたあと、みんなでセンターの全館ツアーに出発！その後のワークショップでは、センターのあらゆるエリアを活用したユニークなプログラムアイデアがたくさん生まれました。



テーマ 6 「ユニークな企画の作り方」

ゲストは社会実験者としてユニークな企画を生み出す陸奥賢さん。みんなで家から持ち寄った食材や本を使った陸奥さんのおもしろワークショップを通して、楽しい企画の作り方を勉強。「既存のアイデアを組み合わせる」、「まず小さくやってみる」といった、活動へのヒントを得ることができました。



出張プログラム

普段はセンターが会場となるコミュニティプログラムですが、地域団体や企業と連携し、市内各所で実施されることも。センターでの活動を広く周知できる貴重な機会となっています。

立川南フェスタ

立川南口商店街連合会主催のイベント出張は3回目。4つのプログラムが実施された今年度は、団体メンバーが会場エリア全体の企画にも参加し、会場内の様々なプログラムを楽しんでもらうためのアイデアを考えました。企画は大成功！当日は昨年度の10倍を超える親子が集まり、大にぎわいとなりました。



協働プログラム

自分たちだけではできないことも、他の団体と力を合わせれば実現できる。協働プログラムは、互いのスキルを活かして、新たなことに挑戦し、活動の幅を広げることができる場です。

えんげきのせかいをつくろう！

演劇の舞台美術を作るプログラム。イメージをふくらませるため団体の演劇パフォーマンスを鑑賞し、その後ダイナミックなえのぐ遊びで子どもたちの感性を生かした作品づくり。作った作品は市内の施設「たちかわ創造舎」で開催された演劇イベントで使用され、施設間の連携も生み出しました。



アクティベーターの活動

「団体には属していないけれど、センターやまちで活動してみたい！」という想いをを持った市民ボランティアの皆さんを、センターでは『アクティベーター』と呼んでいます。現在センターでは、8名のアクティベーターが活動中。プログラムのおまつり『さんさんガーデン』に関わったメンバーは、イベントサポーター（P.19参照）とともにプログラムの企画に参加。それぞれが思い思いのかたちで活動に取り組んでいます。



その後、いかがですか？



八崎篤さん

センター活動期間：2013～2019年度

カホンプロジェクト、オトナリ2団体の代表。現在は千葉県柏市を拠点に、柏の葉アーバンデザインセンターのディレクターとしてまちづくりに携わっている。

カホンプロジェクトとオトナリ、2つの団体で約6年活動してきた八崎さんから話を伺いました。

Q. センターではどんな活動をしていましたか？

子ども未来センター（以下、センター）がオープンした2013年から、地域の間伐材を使って打楽器カホンをつくる「カホンプロジェクト」という活動をしていました。親子からプロのミュージシャンまで毎月たくさんの方が参加してくれて1年ぐら経ったころ、作ったカホンで演奏もできる音楽イベントをやりたいと思い2014年に立ち上げたのが「オトナリ」という団体です。2ヶ月に1度、立川南口商店街連合会（以下、南口商店街）と協働で「オトナリ@たちかわ」という誰でも参加できるフリーライブをセンターの芝生ひろばで実施することにしました。

Q. 「オトナリ」はどうやって立ち上げたのですか？

「オトナリ」は半年ぐらかけて市民活動コーディネーターの皆さんに相談しながら徐々に活動のイメージを膨らませていきました。私は人に相談しながら考えをまとめていくタイプなんです。そこから、市民が楽しめて、近隣商店街のお店にもメリットがあり、市外から来た人も楽しめるようなプログラムを構想していったんです。せつかくやるならプロの

ミュージシャンを呼びたいと思っていたので、立川市が助成している協働のまちづくり推進事業補助金^(※1)の話があった時、南口商店街と協働で実現できそうだと本格的に地域、具体的にはセンター周辺の店舗さんや他の活動団体さんと調整をしていきました。そこからは「オトナリさんがふえると、マチがもっと楽しくなる」をテーマに「オトナリ@たちかわ」を実施しながら、ホームページやオリジナルグッズを作成したり、商店街のお店ともつながったりしながら活動を作り上げていきました。毎回100名ほどの参加者が集まり、2年間で17回のライブとまちあるきを実施しました。とにかく自分自身が楽しんで活動していましたね。

Q. 現在はどんな活動をしていますか？

子どもが生まれたことをきっかけに、自宅がある千葉県に拠点を移し、現在は「柏の葉アーバンデザインセンター」のディレクターとして働いています。仕事内容は地域住民、NPO団体、企業や行政のバランスを調整をするコーディネーターの役割を担うことが多いですね。実は、現在の仕事はセンターでの市民活動の経験がすごく活かしているんです。「カホンプロジェクト」の活動で地域間のコミュニティをつなぎ、「オトナリ」ではコミュニティを再認識して多様な人や主体が交流できるきっかけづくりを行ってきました。モノを介しての活動から、人同士の関係性づくりへと活動がシフトした点は私にとって大きな変化だったんです。自分が主体となっていた市民活動の経験があるからこそ、誰かのやりたいことの背中を押したり、具体的な方法をイメージしながらアドバイスできるようになりました。自分が主体となって「オトナリ@柏の葉」にも挑戦してみたいですね。



オトナリライブの様子

(※1) 立川市が実施している補助金事業の1つ。市内で活動する2つ以上の団体による協働事業又は、市と団体の協働事業が対象(審査有り)。

その後、いかがですか？



森林育代さん

センター活動期間：2012～2015年度

NPO法人ダイバーシティコミュの代表。現在は株式会社シーズプレイスを設立し、地域での多様性を広げるさまざまな事業を立川市を拠点に多摩地域へ展開している。

ダイバーシティコミュの代表としてセンターで約3年間活動してきた森林さんから話を伺いました。

Q. センターではどんな活動をしていましたか？

センターがオープンする前の2012年夏、市民活動団体が施設で活動するための指針となるコンセプトを話し合うワークショップ^(※2)から参加していました。ちょうど私たちがその年の6月「NPO法人ダイバーシティコミュ」を立ち上げたばかりで、「誰もがその人らしく笑顔で暮らせる地域づくり。地域で多様性を推進していこう」と活動を始めたばかりでした。活動初期にセンターの活動コンセプトを作るところから一緒に関わったことで、センターを拠点に自分たちの活動がより展開しやすくなりました。センターでは月に1回ほど、「幸福」や「音楽」をテーマにした映画上映を実施していました。夏休み時期に屋上で、子どもから大人まで楽しめるよう他団体と一緒に映画上映と縁日を企画したこともありでしたね。

Q. とくに印象に残っていることはありますか？

センターで活動をする時には市民活動コーディネーターが相談にのってくれたり、時にはいつもと違う視点から意見をもらえたりとサポートしてくれたので、孤独を感じなかったことが印象に残っています。もう1つは、センターでの活動を通して出

会った3団体で実行委員会を立ち上げて実施した「立川ミライ会議」(2014年)ですね。立川市の未来について参加者それぞれの視点や想いを持ち寄って話し合うワークショップの場で、地域で活動する団体や個人が横のつながりを生み出す機会となりました。私自身もここでの出会いが新たに始めた現在の活動へとつながっています。まさしく立川市やセンターでの活動が未来を作りました！

Q. 現在はどんな活動をしていますか？

多摩地域生まれなので、この地域を働きやすさの視点からも良くしたいと思っています。「ダイバーシティコミュ」での理念や経験を基に、「立川ミライ会議」がきっかけでつながった現在のメンバーと2016年に法人「シーズプレイス」を立川市内に設立しました。「シーズプレイス」は、「暮らす地域で幸せに育ち・働く」人を増やすために子育て支援から創業就業支援や地域活性化、男女共同参画を柱に活動を展開しています。職場には保育園も付いているので、子育てと仕事を両立させたい女性、まさに自分が欲しかった場所をつくることができたと感じています。

Q. チームで活動するうえで大切なことは何ですか？

10人いれば10人各々に向いていることがあるので、1人で何でもやろうと思わないことが重要だと思っています。私の役割はリーダーで、後ろでサポートしてくれる人や休もうと言ってくれる人など、色んな人がいてこそ前に進んでいけるんですよ。そこを踏まえて、チームとしての活動理念をどう伝えていくかも大切です。メンバーが理念を自分ごととして考えられるよう、相手に合わせて伝え方を変えるようにしています。

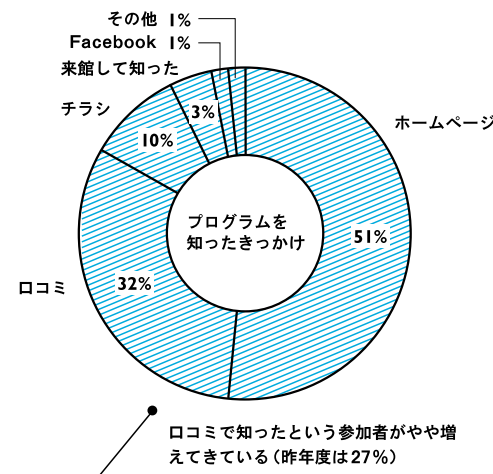
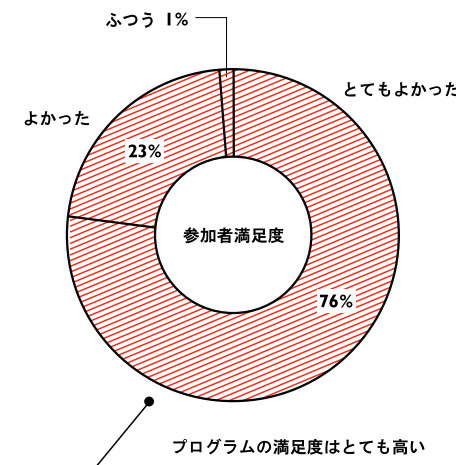
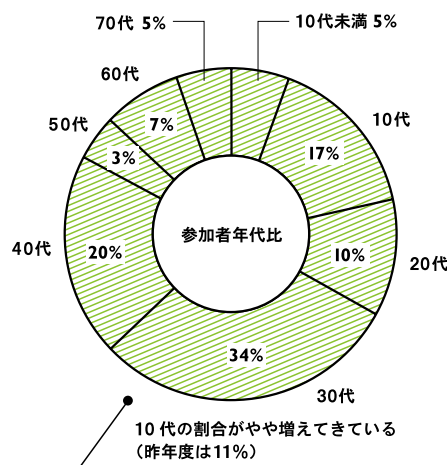
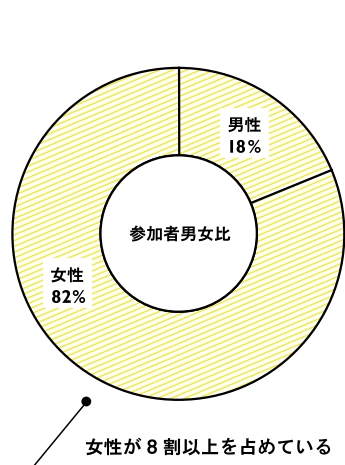


センターでの活動の様子

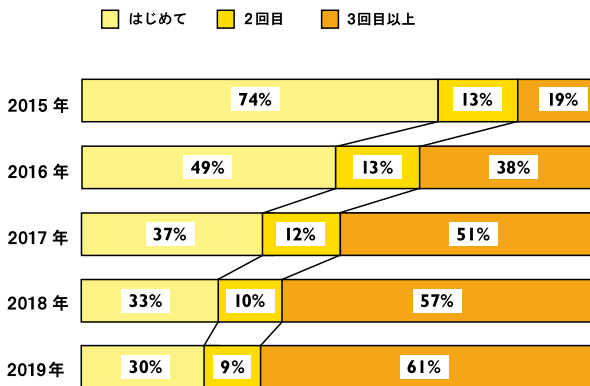
(※2) センターがオープンする半年前、立川市内の市民活動団体を中心に開かれたワークショップ(全4回)。▶詳細はP.8ページへ

プログラム参加者の傾向

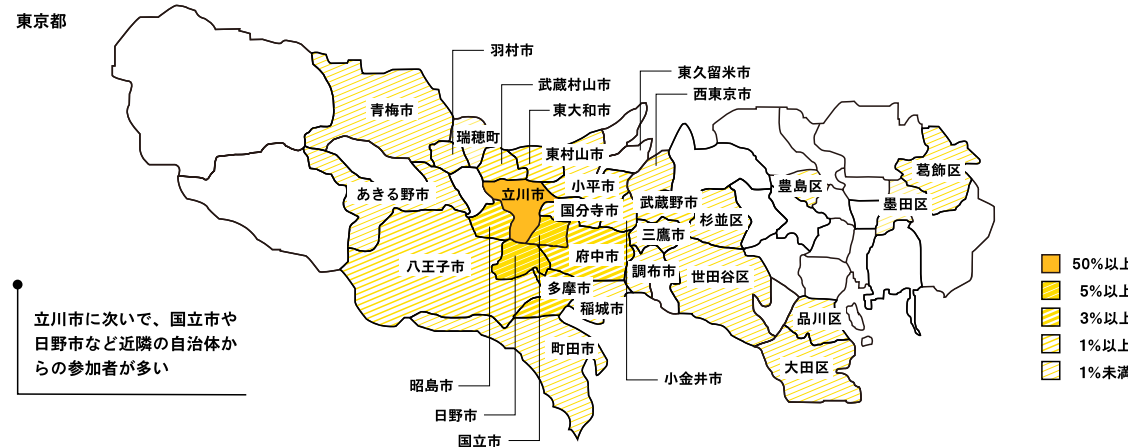
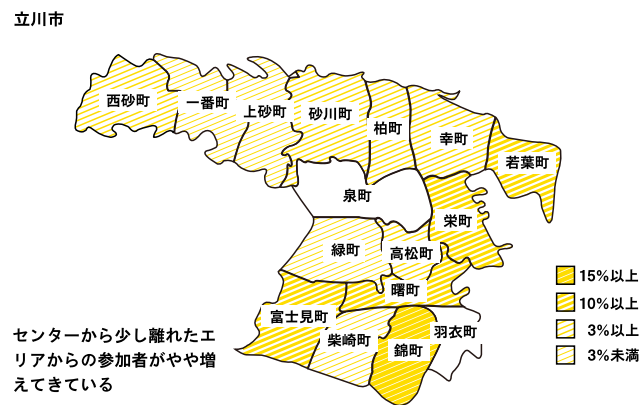
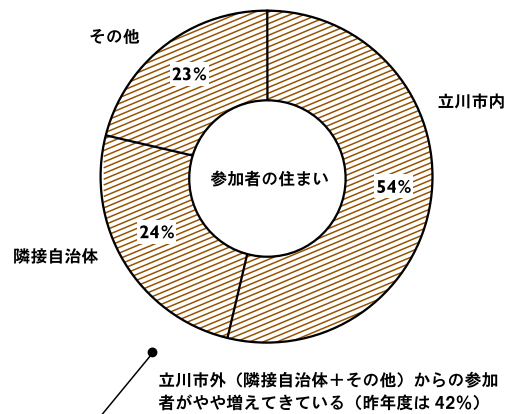
参加者アンケート コミュニティプログラムに参加した方のアンケート結果をご紹介します。(回答者数 826名。未回答を除く)



参加者のリピート率

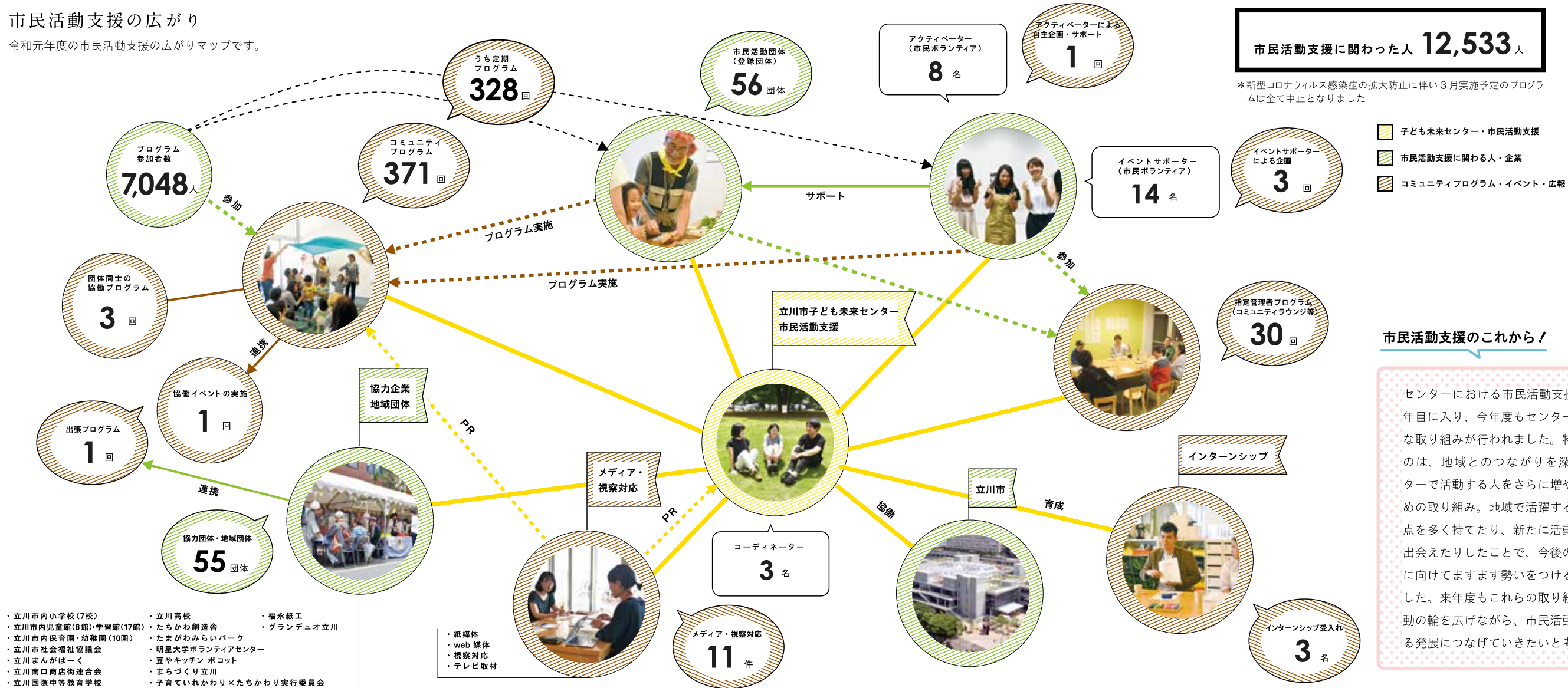


リピーターは年々増える傾向にあり、2019年は7割を占めている



市民活動支援の広がり

令和元年度の市民活動支援の広がりマップです。



市民活動支援のこれから!

センターにおける市民活動支援が始まって7年目に入り、今年度もセンターの内外で様々な取り組みが行われました。特に力を入れたのは、地域とのつながりを深めたり、センターで活動する人をさらに増やしたりするための取り組み。地域で活躍する皆さんとの接点を多く持てたり、新たに活動する人たちと出会えたりしたことで、今後の市民活動支援に向けてますます勢いをつけることができました。来年度もこれらの取り組みを通じて活動の輪を広げながら、市民活動支援のさらなる発展につなげていきたいと考えています。

1年間のできごと

令和元年度

- 4月
 - ・今年度の取り組みを登録団体同士で話し合うワークショップを開催
 - ・登録団体間でプログラム運営をサポートし合うほか、見学も頻繁に行われようになる
- 5月
 - ・週末に実施されるプログラムの数が増え始める(3~5プログラム)
 - ・8つの登録団体による協働プログラムが実施される〔〇〇わんぱーく〕
- 6月
 - ・夏の協働イベント「さんさんガーデン2019」に向けた作戦会議が始まる
 - ・近隣商店街や地域企業が連携のため協働事務室を訪れるようになる
- 7月
 - ・市民ボランティアプログラム「夏のイベントサポーター」の活動が始まる
 - ・ゲストを招き、イベントサポーター・登録団体向け勉強会が開催される〔『子ども未来センターの魅力的な使い方』講師：石田裕也氏〕
- 8月
 - ・夏の恒例、協働イベント「さんさんガーデン」が開催される(登録団体・イベントサポーター含め17団体114名が関わる)
- 9月
 - ・立川南口商店街連合会主催「立川南フェスタ2019」にて4つの出張プログラムを実施(参加者数が1300名を超える)
- 10月
 - ・夏のイベントサポーターが「アクティベーター」となり活動を始める
- 11月
 - ・登録団体・アクティベーター向け交流会「喫茶めがね」を開催
- 12月
 - ・コーディネーターが情報交換のため他地域の施設へ視察に行く〔視察先：UDCK 柏の葉アーバンデザインセンター〕
- 1月
 - ・春の協働イベント「みらきちからの挑戦状」に向けた作戦会議が始まる
 - ・明星大学ボランティアセンターと連携し、学生ボランティアの募集を始める
- 2月
 - ・市民ボランティアプログラム「春のイベントサポーター」の活動が始まる
 - ・ゲストを招き、イベントサポーター・登録団体向け勉強会が開催される〔『ユニークな企画の作り方』講師：陸奥賢氏〕
- 3月
 - ・子ども未来センター7周年
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定されていたプログラムが中止となる
 - ・コミュニティプログラムの情報を発信するLINE公式アカウントの運用が始まる



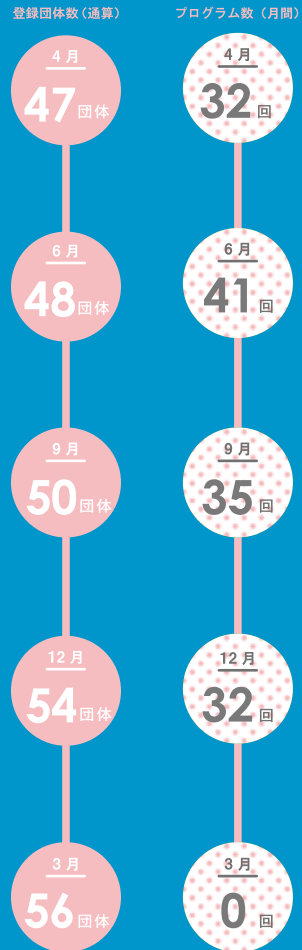
UDCKへの視察



子どもたちへサプライズ



春の協働イベント「みらきちからの挑戦状」



**立川市子ども未来センター
市民活動支援 アニュアルレポート 2019**

発行日 2020年

発行 立川市子ども未来センター指定管理者
合人社計画研究所グループ
株式会社 studio-L

〒190-0022
東京都立川市錦町3-2-26 立川市子ども未来センター 2階協働事務室
tel. 042-529-8682 (総合受付)
mail. c-program@t-mirai.com
web. <http://www.t-mirai.com>

企画・編集・デザイン 市民活動コーディネーター
落合 祥子・藤山 綾子・塩成 透

イラスト ナカイ ミナ